



ぶどう特報 #4



2022年5月17日
JA 中野市園芸課
JA 中野市ぶどう部会

露地の開花は平年より早いと見込まれます。4月下旬豪雨等で病害感染拡大が心配されます。については、生育状況をこまめに確認し、概ね10日間隔で定期防除を進めてください。

年度	巨峰開花	シャイン開花	特記
平年	6/5	6/10	過去10年平均値 (H24~R3)
2021年 (R3)	6/8	6/14	生育停滞により開花平年より遅れる
2022年 (R4)	6/3頃	6/7頃	平年よりやや早い予想

今回の特報は#4・5の2枚発行しています。別紙#5にフラスター液剤、開花直前の定期散布を記載しています。

【5月下旬の定期散布 *共通】 前回から10日後

散布時期	展葉9枚目頃	散布日：5月 日
散布薬剤	水	100ℓ
	展着剤 (ハイテンパワー)	10 ml
	ドーシャスフロアブル	50 ml (60日前・3回)
	グリーンデイズ 等	100 g (※葉面散布剤 詳しくは下段参照)
散布量	300ℓ/10a	散布量： ℓ
適用病害虫	べと病、黒とう病、晩腐病	
注意事項	カスミカメムシ類・カイガラムシ類対策：コルト顆粒水和剤3,000倍(前日、3回)を加用する。	

【5月下旬の散布 *種なし共通】

散布時期	展葉9枚目頃 *満開予定日の14日前～	散布日： 月 日
散布薬剤	水	100ℓ
	展着剤 (ハイテンパワー)	10 ml
	ストマイ液剤 20	100 ml (満開予定日の14日前～開花始期、1回)
散布量	300ℓ/10a	散布量： ℓ
使用目的	無種子化	
注意事項	① 有核巨峰には絶対に飛散しないように対策を講じる。 ② 満開予定の14日前は概ね展葉9枚目頃に該当するので、生育状況を確認し、早めに散布完了する。 ③ 品種間で開花時期が異なるため、混植園では開花状況を確認して散布する。	

参考：ぶどう用葉面散布資材 *使用時期目安：展葉6枚～落花直後まで

◆ 農薬混用：可

◆ 注意：落花17~20日から袋かけ直前まではブルーム溶脱の恐れがあるため混用しない。(袋かけ後の散布は可能)

資材名	倍率	使用目的	規格
グリーンデイズ	1000	◎オススメ 葉色向上・ゴマ塩果対策・花ぶるい防止 等	1 kg
オルガミン	1000	◎オススメ 葉の厚み・受光体制向上・食味向上 等	1L・5L・10L・20L
ビックマグ	1000	葉色向上	1 kg

昨年度の市内土壌分析結果から『マンガン不足』の園地が非常に多く確認されました。

『グリーンデイズ』は不足気味のマンガン・ホウ素を補給でき、さらに苦土による葉色向上が期待できます。

裏面：シャイン未開花症状と対策について記載

シャインマスカット未開花の症状について *展葉5枚目頃から確認可能

- ① 花冠(キャップ)のしわが無い・判別が付きにくい。*正常な花蕾はピーマンのような形(下図参照)
- ② 開花前になっても緑色が濃い。*正常な花蕾は開花期になると黄緑色に変色する。
- ③ 未開花症状の花蕾は正常なものに比べ緑色が濃く、丸い(扁平)。
- ④ 房先端の花蕾が房上部と比較して小さい。



未開花の粒

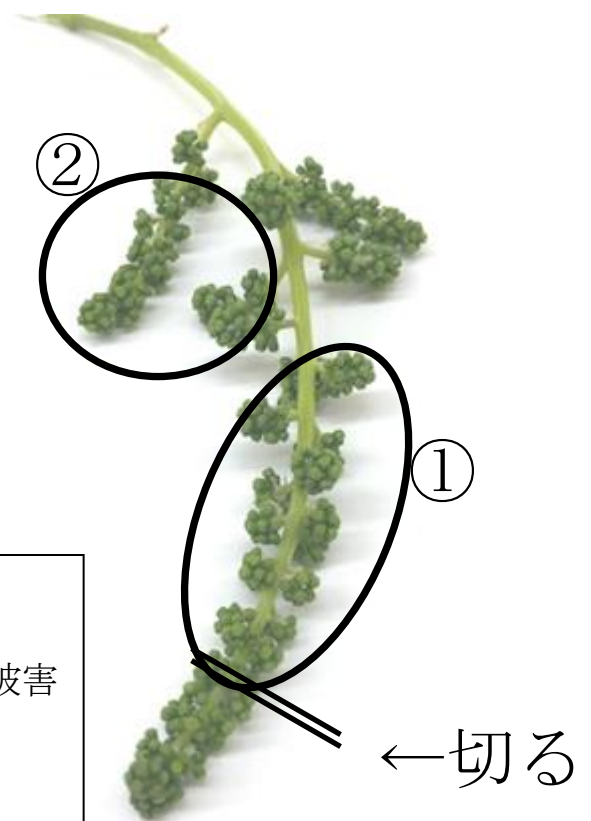
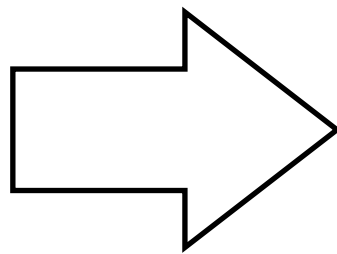
- ① 花冠のしわが少ない ②花蕾が扁平(イチジク型又はまんじゅう型) ③開花前も濃い緑色

正常な房の粒

- ① 花冠のしわが多い。ぼこぼこしている ②花蕾が長細い(ピーマン型) ③開花前は薄緑色。

対策 *症状をよく確認し、開花程度を見ながら房切りを実施する

- ① 健全な部分(上部や中間部の支梗)を利用した房切りを実施する。
- ② 房の先端を利用する場合は房切りを長めにする。



未開花が確認された場合 ↓

- ① 長めに房切りしておき、先端の被害程度に応じて主穂中間部を使用。
- ② ショルダーや支梗を使用。



ぶどう特報 #5



2022年5月17日
JA 中野市園芸課
JA 中野市ぶどう部会

梅雨期間は黒とう病・晩腐病等の主要病害感染拡大が最も心配されます。については、概ね10日間隔で定期防除を進め、散布死角が発生しないように注意してください。

年度	巨峰開花	シャイン開花	特記
平年	6/5	6/10	過去10年平均値 (H24~R3)
2021年 (R3)	6/8	6/14	生育停滞により開花平年より遅れる
2022年 (R4)	6/3頃	6/7頃	平年よりやや早い予想


今回の特報は#4・5の2枚発行しています。別紙#4に5月下旬定期散布及びストマイ液剤散布を記載しています。

【6月上旬の散布】

*フラスター液剤登録内容：https://www.nippon-soda.co.jp/nougyo/seihin/pdf/FRASTAR_L.pdf

散布時期	新梢展開葉7~11枚目時	品種名：_____
散布薬剤	水 100ℓ	散布日： 月 日
	展着剤 (ハイテンパワー) 10 ml	散布量： _____ リットル
	フラスター液剤 *品種毎倍率は下記参照	品種名：_____
	シャインマスカット 50 ml	散布日： 月 日
	クイーンルージュ® 50 ml	散布量： _____ リットル
	種なし巨峰 100 ml	品種名：_____
ナガノパープル・ピオーネ等 125~200 ml	散布日： 月 日	
有核巨峰 125~200 ml	散布量： _____ リットル	
散布量	*手散布：100~150L/10a *SS散布：300L/10a	品種名：_____
使用目的	着粒増加・新梢伸長抑制	散布日： 月 日
注意事項	① 品種により倍率に異なるため、散布前に必ず、登録内容を確認する。 ② 有核巨峰：展着剤ハイテンパワーに代えてアプローチB I 500倍を使用する。 ③ 弱樹勢の樹や若木は新梢伸長が極端に弱る可能性があるため、散布を控える。	散布量： _____ リットル

【6月上旬の定期散布 *共通】前回から10日後

散布時期	開花直前	巨峰・パープル等
散布薬剤	水 100ℓ	散布日：6月 日
	展着剤 (ハイテンパワー) 10 ml	散布量： _____ リットル
	パレードフロアブル15 50 ml (7日前・2回)	品種名：_____
	オーソサイド水和剤80 125g (30日前・3回)	散布日：6月 日
	トクチオン水和剤 125g (45日前・3回)	散布量： _____ リットル
グリーンデイズ 等 100g (※葉面散布剤)		
散布量	400ℓ/10a	
適用病害虫	黒とう病、晩腐病・灰色かび病・べと病・褐斑病 コナカイガラムシ類・アザミウマ類	
注意事項	① 【代替】在庫がある場合は、トクチオン水和剤に代えて、 スプラサイド水和剤 1,500倍 (14日前・2回) を使用してもよい。 ② 主幹害虫対策：主幹・主枝にも薬液が到達するようにする。 ③ アザミウマ類対策：花穂(軸部)に薬液が到達するようにする。	

裏面：シャインマスカット房作り・黒とう病対策について記載

◆ シャインマスカットの房作り（果房管理）について

房きり	<p>時期：開花1週間前～開花始め・満開頃</p> <p>長さ目安：開花前2.5～3cm・満開時3.5cm</p> <p>*先端の分岐や軸が変形した花穂が多い場合や、未開花症状が心配される場合は、上記目安よりも長めに房きりし、予備摘粒時に段数調整・房の整形をする。</p> <p>花穂利用順序：主穂 → 第1支梗 → ショルダー（未開花対策等）</p>
1回目ジベ処理	<p>時期：満開～満開3日後</p> <p>濃度：ジベレリン25ppm+フルメット5ppm ⇒ 水2ℓにジベ2錠とフルメット1本</p>
予備摘粒 *段数調整・房の整形	<p>時期：1回目ジベ処理後7～10日後 *粒の大小や粒のバラツキ具合・支梗の位置・房の形がある程度判明してきたら、予備摘粒を開始する。</p> <p><u>ポイント</u></p> <p>① 目標とする出荷規格に合わせて段数（軸長）を調整する。</p> <p>② 房尻の形が悪い場合は、「よい房型になりそうな部分」を決めて、房尻を切り上げたり、分岐を切除したりする。</p> <p>③ もぐり粒（下向き・内向きの粒）・極端な大粒・小さい粒・奇形の粒を中心に摘粒して40粒以下にする。</p>
2回目ジベ処理	<p>時期：満開10日～15日後</p> <p>濃度：ジベレリン25ppm ⇒ 水2ℓにジベ2錠</p>
仕上げ摘粒 *最終35粒程度に！	<p>時期：2回目ジベ処理後 *果粒の肥大程度や粒の配置・房型がおおむね確定してくるので、房型を意識して実施する。</p> <p>ポイント：肥大が進んで下や内側を向いたもぐり粒を中心に摘粒し、最終的に35粒程度に仕上げる。</p>

【重要】 黒とう病注意 *早期梅雨入りに備えて警戒！

梅雨期は黒とう病感染の最もリスクが高まり、花穂や果粒（幼果）への感染は商品性が失われます。ついでに、過去に発生があった園地（部分）や若木の園地は特に注意してください。病斑の早期発見で被害拡大は防げます。

- ① 症状の確認 ⇒ 右写真参照（葉病斑）
 - ◆ 葉には淡褐色～黒褐色の病斑ができ、しだいに穴が開く
 - ◆ 新梢には淡褐色の病斑が現れ、しだいに範囲が広がる
 - ◆ 雨により伝染し、葉や新梢のほか花穂・果粒・巻きひげなどの緑色の部分を侵して病斑をつくり、生長を妨げる
- ② 防除：10日間隔の定期防除の徹底
- ③ 草刈りの実施：下草から感染の恐れあり
- ④ 昨年発生した場所の確認：昨年の病斑が伝染源となる
- ⑤ 被害の確認：病斑のある枝や葉は早めに園地外へ持ち出す



特報#6：6/1付け発行予定。落花後・落花12日後・落花20日後の定期散布等記載予定